令和５年度　両生・爬虫・哺乳類調査報告書

両生・爬虫・哺乳類担当　　松尾　公則

１．相川湿地の整備や野外観察会

例年通り湿地の整備、産卵数の確認、野外実習を実施しました。

１－（１）相川湿地整備

今年度は、5 つの団体にお願いして**湿地整備**を行いました。

実施日：12 月 2 日（土）　10:00～15:00

参加者：総勢 32 名・・・松尾（担当者 1 名）

長崎大学教育学部 3 年生理科専攻（大庭准教授以下 4 名）

長崎総合科学大学（持田準教授以下 11 名）

時津幼稚園先生方（別所園長先生以下 6 名）

ＮＰＯ法人環境保全教育研究所（6 名）

九州電力長崎支社（4 名）

長崎市役所（1 名）

※相川自治会（10 名）・・・自治会の方は、11 月 18 日、25 日で湿地期の草刈りを実施している。

①整備前のようす（自治会による草刈り後）・・・12 月 2 日撮影

②作業中のようす（12 月 2 日）：10:00～15:00

③作業後の湿地

④作業後全員で記念撮影

１－（２）産卵されたニホンアカガエル

溝掘り作業後の人工の小さな池には、例年通りにニホンアカガエルが産卵しました。最初の産卵は、2023 年 12 月 30 日の夜ことです。3 卵塊が確認できました。年が明けてからも産卵は続き、1 月 2 日に 60 卵塊、1 月 10 日に 189 卵塊、1 月 20 日に 436 卵塊、1 月 28 日に約 500 卵塊となりました。2 月になり、第 1 回目の観察会の行われる 2 月 3 日には、新しい卵塊だけで約 200 卵塊を数えることができました。今年の産卵数は約 700 卵塊になりました。昨年の産卵数が約 300 卵塊程度であったので、約 2 倍になったと思われます。オタマジャクシを養殖し幼体まで育ててからの放出の結果が出てきたようです。ただし、全盛期の約 1000 卵塊に比べるとかなり少ないので、今後もいろいろな取り組みをしていきたいと思っています。

今年度最初に産卵された卵塊（12 月 30 日）と多数の卵塊（1 月 20 日撮影）

１－（３）野外実習

今年度は下記の 5 団体で野外実習を実施しました。

① 2 月 3 日（土）　**長崎大学教育学部 3 年生中理生物専攻学生**
学生 6 名と引率の大庭先生

② 2 月 7 日(水)　**時津幼稚園年長組**　　引率者：6 名　園児 41 名
松尾と相川自治会 10 名で対応しました。
10:30 からの約 1 時間、園児たちは喜んで卵塊に触れ、湿地の中を元気に走り回っていました。

③ 2 月 9 日（金）　**創成館高校 1 年特別進学クラス**　引率者 2 名　生徒 16 名

進学を目指す高校生に生態系の仕組みと環境を守る重要性について前日に話をした後、湿地を見学してもらいました。カエルのたまごを触ったのはほとんどが初めてだったそうです。

④ 2 月 12 日（月）　**ＮＰＯ法人環境保全研究所主催**　関係者 6 名、参加者 21 名

家族ずれを中心とした観察会でした。ニホンアカやカスミの卵塊と触れ合い、楽しく学していました。

⑤ 2 月 13 日（火）長崎総合科学大学 3･4 年生　5 名

１－（４）．ニホンアカガエル人工増殖の取り組み

相川湿地でのニホンアカガエルの産卵数は年々減少しています。昨年の産卵数は非常に少なく 300 卵塊程度でした。全盛期の 25%ほどです。この減少の理由は、幼生が育っていないことが大きいと思われます。特に、卵塊からふ化した直後の死亡率が高くなっています。

そのため、3 年前からニホンアカガエルの幼生飼育を行っています。人工的な容器で幼生を育て、飼育後に成長した幼生または幼体を湿地に放すという取り組みです。令和 2 年度は松尾一人で、令和 3 年度は松尾と時津幼稚園で、令和 4 年度は、松尾と時津幼稚園と相川自治会の方でも幼生の飼育を取り組みました。今年度も同様に飼育を試み、その結果として、約 2000 匹の幼体を放流することができました。

幼生を飼育しての放流の効果は確実にあるようです。令和 6 年度も、同様に飼育を試みています。

２．相川湿地以外の調査結果

毎月一カ所の地点を決め、歩きまわりながら目撃できる両生類・爬虫類・哺乳類を調査しています。

２－(1)　長崎市竿浦町・平山町・布巻町（長崎野母崎自転車道路）・黒崎永田湿地（４月）

4 月 16 日：（環境省メッシュ４８２９－０６０７・７６９７・７６８７）

野母崎自転車道路を歩きながら調査を実施しました。

両生類：カスミサンショウウオ、シュレーゲルアオガエル

爬虫類：ニホントカゲ

哺乳類：イノシシ、イタチ属の一種

自転車道路脇の水場（両生類産卵場所）

シュレーゲルアオガエルの幼生

２－(2)　長崎市相川湿地（５月）

今年も 2 月から飼育していたニホンアカガエルの幼体を湿地に放流しました。

放流総数は、約 2000 匹です。

4 月 30 日：長崎特別支援学校・創成館高校飼育分約 50 匹を放流した。

5 月 17 日：松尾飼育分約 150 匹の幼体を放流した。

5 月 20 日：松尾飼育分約 100 匹の幼体を放流した。

5 月 22 日：松尾飼育分約 200 匹の幼体を放流した。

5 月 26 日：松尾飼育分約 150 匹の幼体を放流した。

5 月 29 日：松尾飼育分約 250 匹の幼体を放流した。

なお、6 月になってからも。約 1000 匹を放流している。

２－(3)　長崎市琴海形上町県民の森線の脇の人工池（６月）

6 月 4 日：環境省メッシュ４９２９－３５２９

県民の森線の道路脇に小さな人口の池があるので、そこで両生類の調査を実施しました。

水はきれいで、ヒルムシロが水面を覆っていました。

両生類：アカハライモリ、ツチガエル、タゴガエル、シュレーゲルアオガエル

爬虫類：なし

哺乳類：イノシシ（足跡）、テン（糞）、コウベモグラ（塚）

飼育しているニホンアカガエルの幼体の放流も 5 月に引き続き行った。5 月分と 6 月分の放流総個体数は、約 1730 匹である。

6 月 1 日：松尾飼育分約 150 匹の幼体を放流した。

6 月 4 日：松尾飼育分約 150 匹の幼体を放流した。

6 月 14 日：松尾飼育分約 150 匹の幼体を放流した。

6 月 18 日：松尾飼育分約 100 匹の幼体と約 200 匹の幼生を放流した。

6 月 23 日：時津幼稚園飼育分の約 30 匹の幼体と約 100 匹の幼生を放流した。

２－(4)　長崎市県民の森扇山線の長崎市内分（７月）

7 月 16 日：環境省メッシュ４９２９－２５８９・２５９８・２５９９

道路を歩きながら目視による調査を実施しました。

両生類：アカハライモリ、タゴガエル、ニホンアマガエル

爬虫類：アオダイショウ（轢死体）、シマヘビ黒化型（轢死体）、ニホントカゲ

哺乳類：イノシシ（あせり跡）、テン（糞）

ニホンアマガエルの幼生

シマヘビ黒化型の轢死体

２－(5)　長崎市本河内町・芒塚町の旧長崎街道（8 月）

8 月 27 日：環境省メッシュ４９２９－１６５７

日見峠の旧長崎街道沿いを調査しました。

両生類：なし

爬虫類：ニホントカゲ、ニホンヤモリ

哺乳類：イノシシ（あせり跡）、イタチ属の一種・テン（糞）

２－(6)　長崎市手熊町・上浦町周辺（9 月）

9 月 28 日：環境省メッシュ４９２９－１６２４・１６３４・１６３５

手熊川周辺を下流から最上流まで調査しました。

両生類：ヌマガエル

爬虫類：ニホンヤモリ、シマヘビ普通型、ヤマカガシ（幼体、成体）

哺乳類：イノシシ（あせり跡）、イタチ属の一種（糞）、テン(糞)

２－(7)　長崎市大浜町・小浦町周辺（10 月）

10 月 7 日：環境省メッシュ４９２９－０６９６

大浜町と小浦町の河川沿いの上流域を中心に調査しました。

両生類：ニホンアマガエル（幼生）

爬虫類：ニホンヤモリ（卵塊）

哺乳類：イノシシ（あせり跡）、イタチ属の一種（糞）、テン(糞)

２－(8)　長崎市西海町中川内・東（11 月）

11 月 19 日：環境省メッシュ４９２９－２６２３・２６１３

明誠高校奥の中川内・東地区を調査しました。

両生類：なし

爬虫類：ニホンヤモリ（卵塊、成体）

哺乳類：タヌキ（ため糞）、イノシシ（あせり跡）、テン（糞）

ニホンヤモリの卵（水抜き穴）

タヌキのため糞

２－(9)　長崎市相川湿地の整備作業（12 月）

12 月 2 日：相川湿地の整備作業を行いました。詳細は１―（１）の相川湿地の整備作業に書いています。

２－(10)　長崎市相川湿地ニホンアカガエルの卵塊調査（1 月）

12 月から 2 月にかけてニホンアカガエルの卵塊数を調査した。詳しいことは１―（２）の相川湿地の卵塊調査に書いています。

あわせて、下記の三カ所でも調査を実施したので付け加えておきます。

長崎市虹が丘町岩屋神社境内：令和 6 年 1 月 21 日：

カスミサンショウウオ（卵塊）、タゴガエル（鳴き声、成体）

長崎市永田町永田湿地：令和 6 年 1 月 21 日：
　ニホンアカガエル（卵塊約 100）ニホンヒキガエル（成体 3、卵塊 1）
長崎市憩いの里あぐりの丘：令和 6 年 1 月 28 日：
　　ニホンヒキガエル（成体 10、卵塊 10 頭分）

２－(11)　長崎市相川湿地での野外観察会（2 月）

2 月の上旬に 5 団体の野外観察会を実施しました。詳しいことは１－（３）に書いています。

２－(12)　長崎市内を調査予定(3 月)

岩屋山周辺を調査してみたいと考えています。
あわせて、ニホンアカガエルの幼生飼育に取り組んでいます。

３．まとめ

長崎市の自然をずっと見つめてきました。昨年のまとめにも書いているように長崎市街地周辺では、ほとんどの水田が放棄され荒れ地になっています。わずかに残っている水田も乾田化が進み両生類の生息地としては適した状態ではありません。長崎半島には水田はほとんど残っていないし、旧琴海町や外海町も放棄される水田が増加し続けています。調査で回るたびに、以前両生類が多く見られた場所が藪化しているのにショックを受けています。両生類は、産卵や幼生の成長に持続的な水場が必要です。農家の高齢化による水田放棄は仕方のないことかもしれませんが、両生類の世界では大変なことになっています。と、同時に爬虫類も減少し続けています。なかなか、目に見えない哺乳類の世界でも在来のイタチやテン、キツネなどは減少傾向がうかがえます。一方で、イノシシやシカなどは増え続け被害も多くなっていますし、特定外来種であるアライグマも同様の傾向です。

両生類の減少を少しでも食い止めるために、湿地等の保全は大切なことと思い余す。相川湿地、永田湿地では保全活動も行われています。特に、私たちニホンアカガエルを守る会では相川湿地の保全に力を入れています。今年度も、1 年間をっとして湿地の保全に取り組むことができました。整備、卵塊数調査、野外観察会は例年通りに実施できました。湿地整備を本格的に始めたのは 2014 年からなので、10 回連続して実施したことになります。その間、多くのボランテイアの方の協力でニホンアカガエルが産卵できる湿地の状態を維持できました。ただ、我々の仕事は一日だけのことです。地元の相川自治会の日々の活動が何とか湿地の状態を維持できている原動力であることは間違いないので、今後も湿地維持のために協力して動いて行きたいと思います。

長崎市内の残っているわずかな湿地、官民協力して守ることができたらと思います。